田中さん、後藤さん、若尾さん、堀さん、故日根野さん

陶芸5作品を永年保存

東濃信金事業、選定計120点に



永年保存作品に選定された自作を前にする(左から)田中陽子さん、後藤秀樹さん、若尾誠さん＝多治見市虎渓山町、とうしん学びの丘エール

東濃信用金庫(多治見市)は26日、美濃陶芸作品永年保存事業で本年度買い上げた作品の発表会を同市虎渓山町のとうしん学びの丘エールで開いた。故人を含め地元ゆかりの作家5人が手がけた茶わんや浅鉢、花器計5点を披露した。9月末まで同所のとうしん美濃陶芸美術館に展示している。

永年保存作品は、田中陽子さん(40)＝多治見市赤坂町＝の透磁の「長角浅鉢」と、後藤秀樹さん(50)＝同市笠原町＝の鼡志野の花器「海神(わたつみ)」、若尾誠さん(64)＝多治見市小名田町＝の「粉青瓷茶垸(ふんせいじわん)」、堀一郎さん(71)＝瑞浪市土岐町＝の「黄瀬戸茶盌(わん)」。特別永年保存作品として陶磁器デザイナー日根野作三(1907～84年)の楽焼の茶わん「楽(らく)」が選ばれた。

この日、田中さんは磁器とガラスを合わせた幅79・5センチ、奥行き25・5センチの作品を「一瞬の土の表情をガラスの中に焼きとどめ、絵巻物のように物語を感じられる作品にした」と説明。後藤さんは幅、奥行き各75センチ、高さ38センチの大作で「宮城県出身で東日本大震災を機に海神シリーズを手がけている。これまでで最大の作品で目にとまれば」と語った。若尾さんは、青色と緑色を帯びた二つの茶わんが一組として選ばれ「並べて見ると色の違いが分かる。どちらがいいなどと興味を持ってもらえたら」と話した。堀さんは欠席した。

事業は地域文化の振興のため1987年から続けており、38回目。選定作品は計120点となった。発表会には事業推進委員会の委員が出席。会長の加知康之東濃信金理事長は「美濃焼文化の発展、未来への継承のため(購入を)続けていきたい」とあいさつした。

(小森直人)

無断複製・転載を禁じます